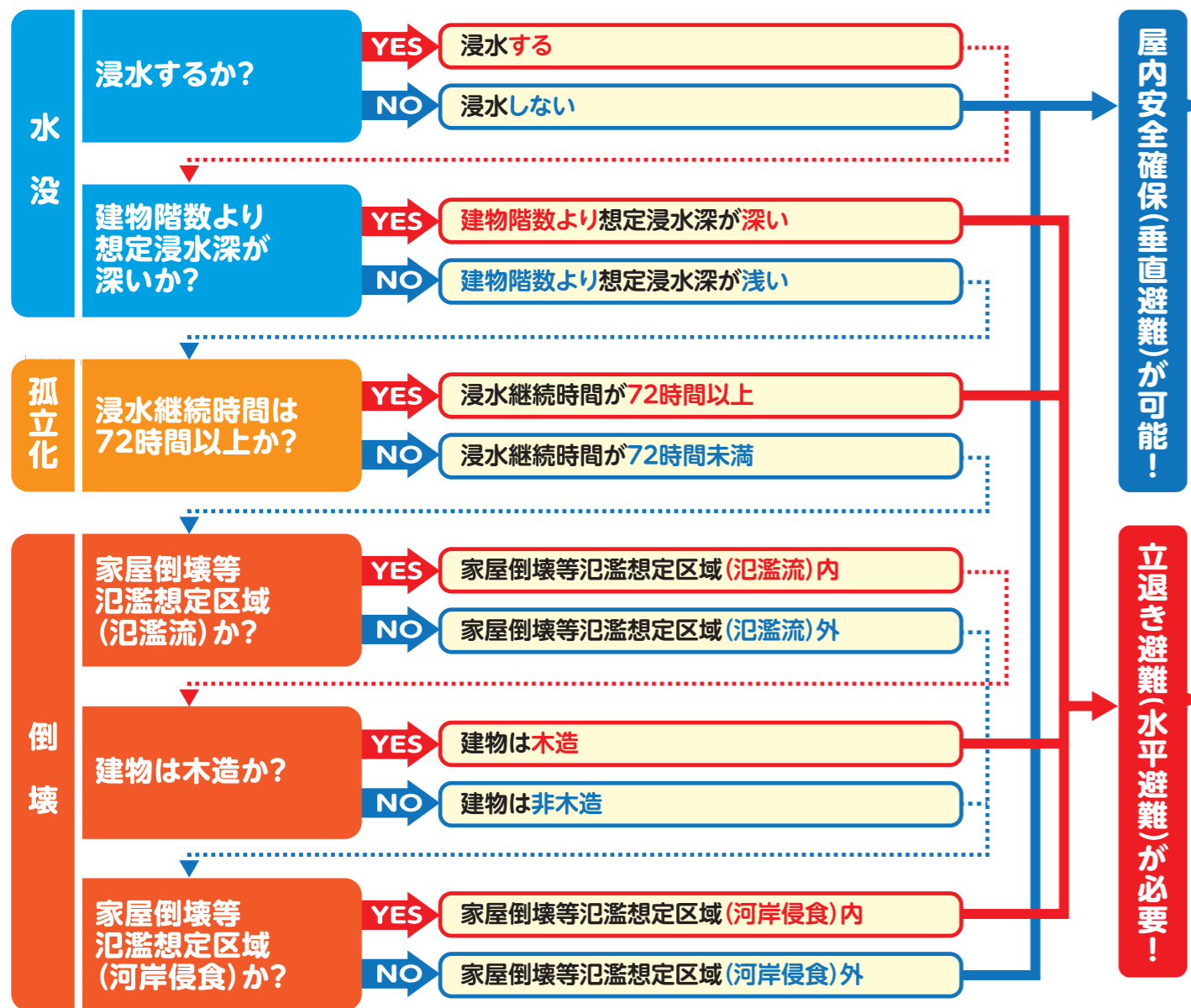


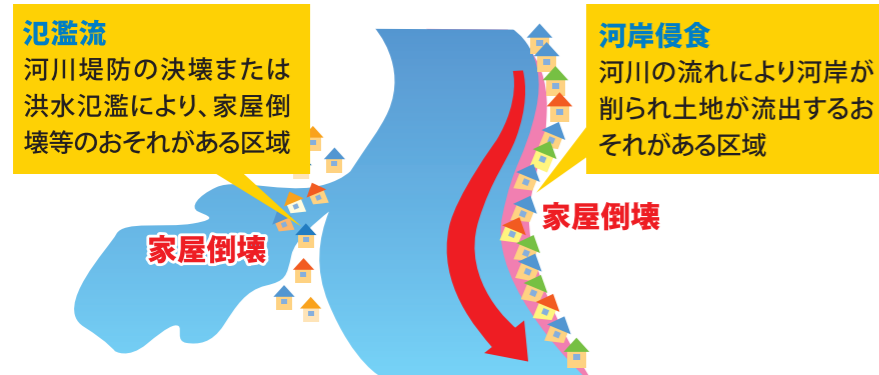
洪水時の避難判断チャート

洪水時には、水没だけでなく、孤立化、避難場所の倒壊といった様々な問題に注意する必要があります。P8からP15に掲載したハザードマップを確認し、自分の家での危険度といざという時の行動方針を確認しておきましょう。

また、これはあくまで想定された一つのシナリオでしかなく、実際の洪水がこの通りに発生するとは限りませんので、自分の家での様々な危険な状況を想定し、危険度や行動方針を検討しましょう。気象情報、水位情報、避難情報や周囲の状況などに注意を払って、ご自身の判断で行動してください。

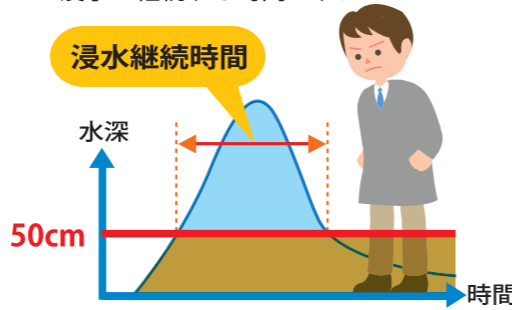


家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)・(河岸侵食)とは



浸水継続時間とは

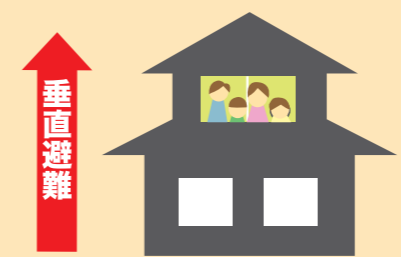
氾濫してから浸水深が50cm以下になるまでの浸水が継続する時間です。



避難行動とは

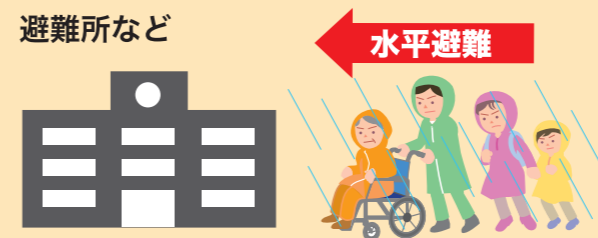
避難行動には、自宅の2階など屋内でより安全な場所へ移動する「屋内安全確保(垂直避難)」と、自宅外の安全な場所へ移動する「立退き避難(水平避難)」があり、地域や状況によって避難の方法は異なります。特に、大雨や夜間における避難の場合は、自宅外への避難途中に被害にあう可能性があるため、避難するタイミングに応じて、最も適切な行動をとりましょう。

屋内安全確保(垂直避難)



屋外へ出ることが危険な場合は、避難するタイミングに応じて自宅に留まり2階へ移動するなど、屋内安全確保(垂直避難)をしましょう。

立退き避難(水平避難)

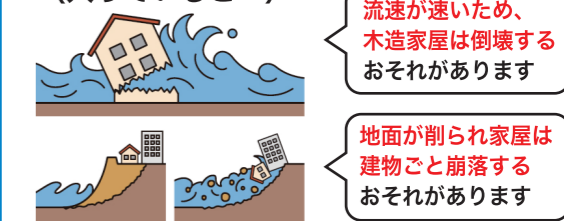


河川の近くや浸水深が大きくなる地域、土砂災害のおそれのある地域など、そこにいることが危険な場合は、避難所などへ立退き避難をしましょう。**立退き避難(水平避難)は災害が発生する前に行うことが原則です。**

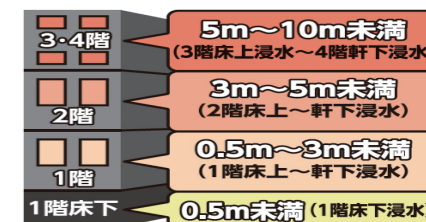
屋内安全確保確認ポイント

次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない(入っていると…)



②浸水深より居室は高い

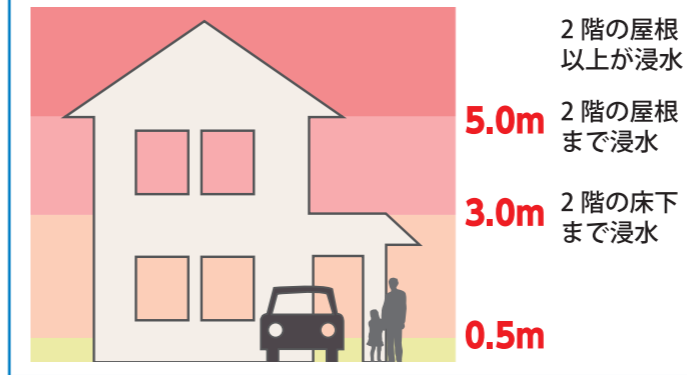


③水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分(十分じゃないと…)
水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります



※①家屋倒壊等氾濫想定区域は8~9p参照
③水がひくまでの時間(浸水継続時間)は14~15p参照

浸水想定区域の見方



浸水深等の地図凡例

最大浸水深(想定最大規模)

